HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	The entrepreneurial process from intention to behavior : Focusing on the moderating roles of human capital, social networks, and financial capital [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Nergui, Enkhzaya
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第14476号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81765
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	NERGUI_ENKHZAYA_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

様式９

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）　　氏名：NERGUI ENKHZAYA

審査委員	主査　教授	岩田　智
	副査　教授	坂川　裕司
	副査　准教授	宇田　忠司

学位論文題名

The entrepreneurial process from intention to behavior: Focusing on the moderating roles of human capital, social networks, and financial capital

（起業意図と起業行動の関係: 人的資本、社会的ネットワーク、財務資本に着目して）

【研究の概要】

本論文は，日本人起業家を対象に，起業意図と起業行動の関係ならびに社会的ネットワーク，財務資本，人的資本が当該関係に及ぼす影響を実証的に検討したものである。

第１章では，アントレプレナーシップおよび起業プロセスをめぐる議論における起業意図と起業行動に関する研究の位置づけ，現状，課題が概説されている。そのうえで，本研究の射程と目的が明確に設定され，次いで本論文の構成が示されている。

第２章では，起業意図と起業行動に関する体系的かつ詳細な文献レビューがなされている。既存研究が起業意図に着目するようになる経緯や，起業行動に射程を拡張していく過程，起業意図と起業行動に関する代表的なモデルの展開，がきわめて丁寧に整理・検討されている。従来の議論では，意図と行動に関する心理学的アプローチが支配的であり，社会学的要因あるいは状況要因が看過されがちであること，とりわけ意図の先行要因に関する議論に傾斜していること，意図と行動の関係に影響を及ぼす要因がほとんど解明されていないこと，などの理論的課題を指摘しながら本研究の仮説ならびに分析枠組みが提示されている。

第３章では，上述のリサーチ・ギャップを踏まえて設計された本論文の調査・研究方法と収集されたデータの予備的検討がなされている。先行研究の渉猟を通じて注意深く選び抜かれた尺度から成る質問票を用いてオンライン・サーベイが実施され，532 名の日本人起業家の量的データが分析の俎上に載せられている。本格的な分析に先立ち，非回答バイアスやコモン・メソッド・バイアス，妥当性について丁寧な検討がなされている。

第 4 章では，文献レビューを踏まえて，先行研究との比較検討に適切であると考えられることから実施された階層的重回帰分析の結果が示されている。具体的に，起業意図は起業行動に正の影響を及ぼしうること，くわえて人的資本のなかでも全般的管理経験が，社会的ネットワークのなかでも個人的人脈が，それぞれ起業意図と起業行動の関係に正の影響を及ぼしうることが明らかにされている。他方，財務資本や技術的経験，業界内での経験，ビジネス上の関係，メンターからの支援などが，意図と行動の関係に正の影響を及ぼすという仮説群は棄却されたことが示されている。

第 5 章では，本研究結果について議論がなされている。導出された仮説の支持・不支持について，本研究のデータ特性に注意を払いながら一つ一つ丁寧に先行研究の関連する知見と照らし合わせ，それらの意義・意味が考察されている。

第 6 章では，本研究の理論的・実践的貢献と今後の課題が提示されている。

【評価】

起業意図と起業行動は起業プロセスにおける中核的な概念であり，欧米を中心に多くの論考が積み重ねられている。しかしながら，どちらかといえば，歴史的に起業行動を従属変数とする先行要因の解明に関する議論が支配的である。意図-行動ギャップと指摘されるように，起業意図と起業行動の関係に関する研究蓄積は相対的に不十分であるといえる。くわえて，双方の関係に影響を及ぼす要因に関する研究は乏しい。なかでも社会的ネットワーク，財務資本および人的資本の影響については，当該分野の先端的な国際学術雑誌で重要性が指摘されている。ところが，いまだほとんど実証的に検討されていないことを，文献レビューを通じて確認できる。

先行研究の詳細な検討から理論的・実践的に意義深い目的を探索・設定し，綿密に設計・実施された調査をもとに十分な量的データを収集し，先行研究の乏しい日本人起業家の意図と行動を検討したことは高く評価できる。

また，本研究の結果は，関連する先行研究の知見や直感とは異なる部分が含まれており，理論的にはもちろん起業の促進条件の解明という実践的観点からも興味深い。とくに，全般的管理経験が意図と行動の関係に正の影響を及ぼしうる一方，技術的経験や業界内での経験については正の影響関係が見出されないという知見は，本研究に関するより詳細なメカニズムを探求するうえで示唆に富むものである。

他方で，本研究の課題として，主に以下の点が挙げられる。まず，起業家の年齢や属する業界などといった属性による分析結果の差異を検討することである。また，そうした詳細な分析結果と，日本の教育や雇用システム，労働市場などの文脈的要因に関する知見を結びつけて考察することである。さらに，意図と行動の関係から射程を拡張し，意図の先行要因や起業後のパフォーマンス等を包含する，より統合的なモデルを構築することである。

以上の課題はあるものの，それらは今後の研究課題として扱うべきものであると考えられ，本論文は，学術研究として高い水準に達しており，審査委員全員一致で，博士（経営学）の学位授与に値するものと判断した。